

西上小だより

学校教育目標

- 明るく元気な子
- よく考える子
- 仲良くがんばる子

平成29年5月18日(木)
士幌町立西上音更小学校
校長 川上 裕明

寒かったり暑かったり

変な天気が続いています。

そんな中でも季節は確実に歩みを進め、西上音更小学校の校庭でも桜の花がきれいに咲きました。



5月9日(火)には児童会保体部主催の「お花見給食」が行われました。教室の外にビニールシートを敷いて、全校児童と先生方で一緒のお昼ごはん。楽しいですね。

士幌町の給食は、十勝管内19市町村の中でも、トップクラスに美味しい(!)です。メニューも、出汁のきいた和食あり、「クリームパンネ」「とりのトマトソース焼き」など洋風の



ものありと、バラエティに富んでいます。

おいしい給食、味わっていただきましょう。

共に学び、共に遊び……

複式学級による教室での学習はもちろん、休み時間での体育館での遊びや少年団活動など、上級生が、下級生と一緒に活動できるよう気をつけて過ごしている姿がrippです。そんな上級生から下級生は、ルールはもちろん言葉のかけ方や気遣いなど多くを学ぶことでしょう。

5月12日(金)の放課後には、和室でカルタサークルの活動が行われました。

「十勝ふるさとカルタ」から本格的な「小倉百人一首」まで、元気なかけ声と笑い声が響いていました。



地域清掃に感謝

恒例のクリーン作戦を、5月17日（水）に行いました。
地区老人会の足立会長様はじめ総勢11人の皆様のご支援をいただき、学校周辺を4方向に分けてのゴミ拾い作戦です。
道路脇は一見するとゴミなどないように見えますが、ド



ライバーのポイ捨てでしょうか空き缶などのゴミがなかなかたくさん発見され、どの子も袋をいっぱいにしての大活躍です。



汗をかいての40分ほどのクリーン作戦は、

老人会の皆様からジュースをいただいて、うれしく終了しました。



しかし、会の皆様はその後もお昼近くまで手分けして地区の清掃活動(!)。軽トラの荷台を何台も一杯にして爽やかな笑顔でした。先輩方のパワーに感服です。

◇◇校長室から◇◇

「待つ」こと

教室に授業を見に行くと、感動することや感心することがいくつもあります。その中から、今日は「待つ」ことについて考えてみたいと思います。

複式学級の授業では、2つの学年があっても授業を進める先生は1人です。

授業が始まり、先生から指示や課題が出されます。児童は、今まで勉強したことを参考に、先生の教えや教科書や資料を使って、解決のために努力していきます。

その間、もう片方の学年の児童は、あらかじめ先生から与えられていた課題をしたり、友だち同士で意見を交流したり、ドリルやプリントで復習したりします。わからないことがあれば考えながら、先生が来てくれるまで待っています。

この「待つ」経験が、子どもにはとても大切なのです。

今から40年以上前のこと、アメリカのスタンフォード大学で心理学者のウォルター・ミッシェルが「マシュマロ・テスト」を行いました。対象は、当時4歳の子ども186人。



子どもたちは1人ずつ教室に通され、イスに着席。机の上にはマシュマロが1つ置いてあります。実験者は子どもにこう伝えます。

「私はちょっと用があるので、部屋を出るね。このマシュマロは君にあげるけれど、私が戻ってくるまで食べるのを我慢していたら、マシュマロをもう1つあげるよ。でも、私がない間に食べてしまったら2つ目はあげないよ。15分したら戻ってくるからね……」

さて、186人の子どもたちは、それぞれどうしたのでしょうか。

～つづく～